

由良地区における景観づくり

令和4年2月1日

近畿地方整備局
福知山河川国道事務所

1. 第1回及び第2回検討会開催概要	2
2. 第2回検討会におけるご意見と対応方針等	3
3. 景観整備コンセプト	5
4. 景観整備コンセプトを踏まえた景観検討	6
5. 堤防整備イメージ	7
6. 景観整備コンセプトの反映	8

1. 第1回及び第2回検討会開催概要

第1回由良地区堤防景観検討会概要

開催日時 平成30年11月26日 14:30～

開催場所 由良の里センター

主な議題

- ・ 由良川水系河川整備計画での由良地区について
- ・ 由良地区の景観（歴史風景、特徴等）について

次回議題

- ・ 景観に配慮した堤防整備に向けたコンセプト（案）について

第2回由良地区堤防景観検討会概要

開催日時 平成31年3月6日 14:00～

開催場所 由良の里センター

主な議題

- ・ 景観に配慮した堤防整備に向けたコンセプト（案）について

次回議題

- ・ 景観に配慮した堤防整備イメージについて

2. 第2回検討会におけるご意見と対応方針等

第2回検討会で頂いたご意見に対する対応方針・反映内容について

由良地区の歴史継承関連のご意見	対応方針
1 宮津市の文化振興部局からの意見として日本遺産の構成文化財となっている北前船を活かした整備を検討して欲しい。	・北前船と関連のある由良石を表現した舗装、階段、護岸ブロックで整備することとしたい。
2 昔、江戸時代や明治時代に船がでていたと思われる場所に由良湊を案内する看板等を立て、地元へ通りがかった方や観光客が川側にでて、見てもらえるような場所をつくるなど由良湊の再現を部分的でも行うことについて検討して欲しい。	・堤防上への動線を整備し、川側の景観を望む場を形成することとしたい。
3 由良石は、現状使えるものがあるかという課題はあるが、特殊堤をつくる場合には表面形状を由良石に似せたような化粧石を使うのも一案であるが昔の川岸に使われていたと思われる由良石について、探査が困難であること、また、神社が隣接していることから困難であることは理解。	・由良石については堤防工事中发现した場合、活用を検討することとしたい。

2. 第2回検討会におけるご意見と対応方針等

コンセプト関連・その他整備関連のご意見	反映内容
4 今回のコンセプト(案)のうち「由良湊の記憶を紡ぐ ― 北前船と由良石 ―」について、解説文がわかりづらいため、“周辺景観に融合させる「地」としての整備を行いつつ、“由良の歴史”を表現する”とした方が分かり易い。	・頂いたご意見を元に景観整備コンセプトに反映しました。
5 今回のコンセプト(案)のうち「近隣住民に親しまれる堤防」について、散歩コースとなっていることは大変すばらしいことで、新たに緑を創出することは必要であると考えするため、解説文に“緑の活用・創出”という言葉を入れて欲しい。	
6 今回のコンセプト(案)のうち「地域連携で“にぎわい”を創出」についてイベントではにぎわってよいが、日常的には地域の人たちが気持ちよく生活できることが大事であると考えするため、“にぎわい”という言葉“魅力ある景観”とした方が良い。	
7 護岸設計時、緑を活用することについて検討が必要。住宅側からの景観などの視点場づくりが必要。	・下流側の法面(住宅側)を芝張りとし、緑の連続性を確保します。
8 浜側には松並木がある。それを連続させることも一つの案ではないか。	
9 堤防整備後の維持管理を考慮した堤防にして欲しい。	・維持管理については、河川管理者が適切に実施します。

次ページより、「由良地区堤防景観整備コンセプト」を紹介します

前回までの検討会で頂いたご意見およびヒアリング結果に基づき、下記整備コンセプトを設定した。

◆ 由良湊の記憶を紡ぐ — 北前船と由良石 —

周辺景観に融合させる「地」としての整備※を行いつつ、「由良の歴史」を表現する

※「地」としての整備・・・河口や遠景の山岳を背景とした堤防の見え方に配慮し、

「宮津市景観まちづくりマスタープラン」に則った周辺の自然景観と調和した景観を形成する整備

◆ 近隣住民に親しまれる堤防

築堤計画地は、近隣住民が河川景観を楽しみながら歩く散歩コースとなっていることから、

日常的に人が安全かつ快適に利用できる空間を形成するために緑を活用・創出する

◆ 地域連携で“魅力ある景観”を創出

魅力ある堤防整備を行うことにより、美しい由良の河口景観をのぞむことのできる視点場を確保し、

由良地区全体の回遊性を向上させる観光ネットワークの一翼を担う



北前船の模型
[北前船資料館]



由良石の石堀
[旧由良小学校]



KTR橋梁



稲荷大明神



由良の町並み

＜景観整備コンセプト＞（青字：デザインに関連するポイント）

① 由良湊の記憶を紡ぐ – 北前船と由良石 –

- 周辺景観に融合させる「地」としての整備を行いつつ、「由良の歴史」を表現する

② 近隣住民に親しまれる堤防

- 築堤計画地は、近隣住民が河川景観を楽しみながら歩く散歩コースとなっていることから、日常的に人が安全かつ快適に利用できる空間を形成するために緑を活用・創出する

③ 地域連携で “魅力ある景観” を創出

- 魅力ある堤防整備を行うことにより、美しい由良の河口景観をのぞむことのできる視点場を確保し、由良地区全体の回遊性を向上させる観光ネットワークの一翼を担う



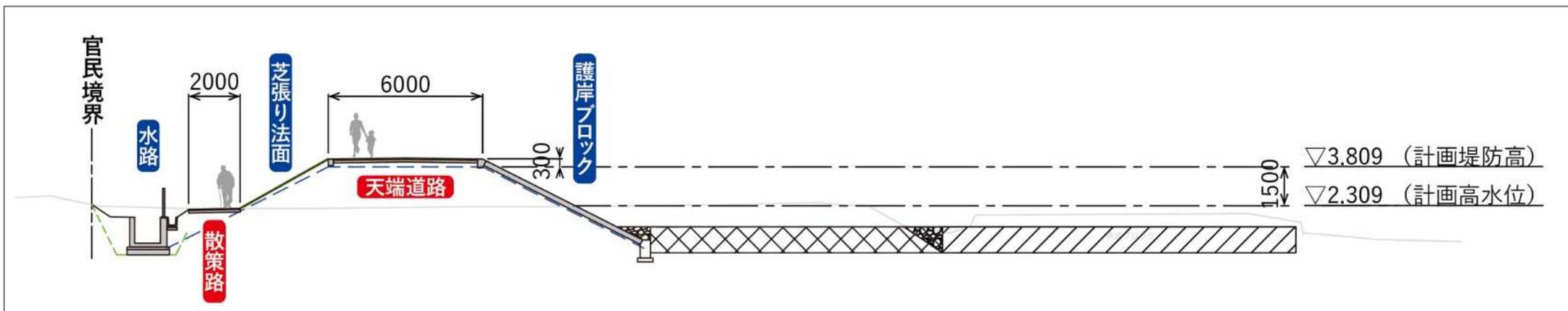
＜景観整備コンセプトを反映＞

「景観検討の方向性」を明確にし、優先度の高いものを中心に形状を検討する

平面図



横断図



◆ 由良湊の記憶を紡ぐ — 北前船と由良石 —

周辺景観に融合させる「地」としての整備※を行いつつ、「由良の歴史」を表現する

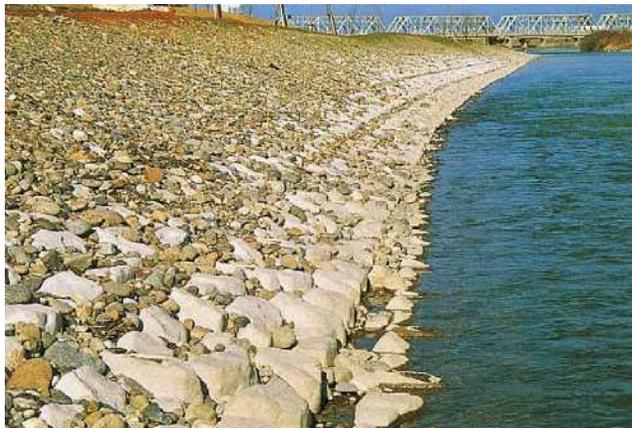
※「地」としての整備・・・河口や遠景の山岳を背景とした堤防の見え方に配慮し、「宮津市景観まちづくりマスタープラン」に則った周辺の自然景観と調和した景観を形成する

護岸：大型護岸ブロックの配列による規則性が周辺の自然景観を阻害するため、大型護岸ブロックに碎石間詰を施し、周辺景観に融合させ、由良の歴史を象徴する「由良石」を表現する

天端及び散策路舗装：通常のアスファルトではなく、由良石を表現するために碎石そのままの色を感じることができる脱色アスファルト自然色舗装とする

堤防階段：推奨散策コース上の堤防階段は、無機質な一般的なコンクリート舗装とせず、表面を石のような風合いを感じるはつり仕上げとすることで、「由良石」の歴史を表現でき、由良地区の景観と融合するものとなる

※由良石については堤防工事に見つかった場合、活用を検討。



大型護岸ブロック(碎石間詰)イメージ

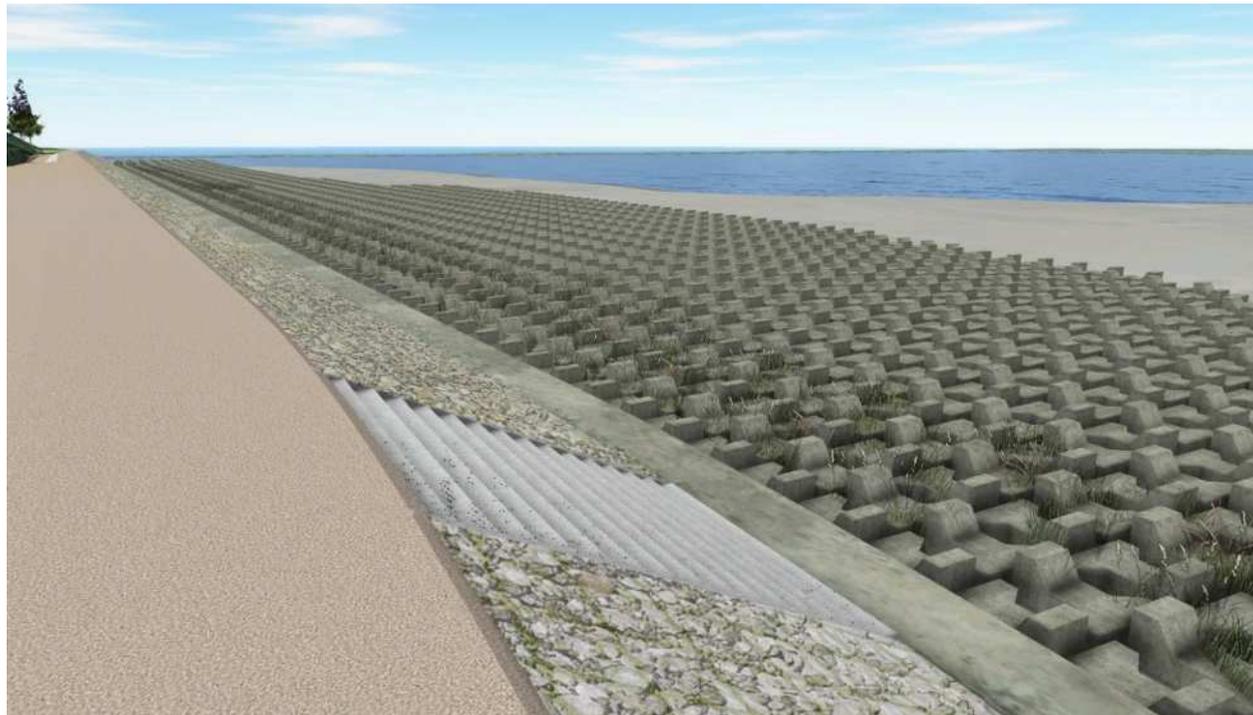


脱色アスファルト自然色舗装イメージ



階段(表面はつり仕上げ)イメージ

◆ 由良湊の記憶を紡ぐ — 北前船と由良石 —



大型護岸ブロック(砕石間詰)と脱色アスファルト舗装

◆ 近隣住民に親しまれる堤防

築堤計画地は、近隣住民が河川景観を楽しみながら歩く散歩コースとなっていることから、日常的に人が安全かつ快適に利用できる空間を形成するために緑を活用・創出する。



周辺景観を楽しみながら安全に歩くことができる堤防天端、芝張り法面、住宅側の散策路整備



芝張り法面及び住宅側散策路イメージ [事例：淀川河川公園 背割堤地区 京都府 八幡市]

◆ 近隣住民に親しまれる堤防



視点場A: 堤防天端からの景観(上:イメージ写真/下: CIM画像※)
 ※堤防により視点が高くなった後



視点場B: 芝張り法面及び住宅側散策路

◆ 地域連携で“魅力ある景観”を創出

魅力ある堤防整備を行うことにより、
美しい由良の河口景観をのぞむことのできる
視点場を確保し、由良地区全体の回遊性を
向上させる**観光ネットワークの一翼を担う**

坂路や階段整備箇所と河川沿いへのアプローチ道路との連携



堤防天端への動線となる階段・坂路位置